

不動産関連情報活用促進ツール制作・運用業務  
公募型プロポーザル選定委員会議事要旨

項目		内容
1	日時	令和6年7月10日（水）10:00～11:00
2	場所	WEB
3	出席委員	委員長 土木建築局建築技術担当部長 委員 総務局広報課デジタル・ディレクター 土木建築局建設DX担当課長 土木建築局都市計画課長 土木建築局住宅課長
4	議題	提案書の審査及び最優秀提案者の決定について
5	担当部署	土木建築局住宅課
6	開催方法	参集（オンライン）
7	議事内容	<p>提出された提案書についてプレゼンテーション及びヒアリングを行い、提案内容を審査した結果、各委員の採点の合計点が最低基準点である点数（満点の6割）に満たなかったため、提案を選定しないこととする。</p> <p>なお、各委員の主な評価理由については、次のとおりである。</p> <p>提案者（株式会社中国四国博報堂）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のコンセプトへの理解が不足していた。WEBサイトの見た目は綺麗にまとめられているが、WEBサイトの目的、サイト訪問者に何を伝えるのか、何をしてもらえたら目的を達成できるのか、そのあたりの設計、シミュレーションができていないと感じた。</li> <li>・実施方針ではDoboXにある他にないデータを生かすことがツールの優位性であると掲げられているが、具体的な提案内容に十分に反映されていなかった。</li> <li>・インタビュー記事をガイドにしてDoboXに導いていくという考えであったが、記事のつくり方や伝え方に具体性がなかった。</li> <li>・普及促進策について仕様書などで具体的な数値目標を求めていたが、その設定がなく、提案された手法が目的の達成になぜ必要なのか不明確であった。オフラインでの広報の選定理由は理解したが、SNSの活用やその他の広告媒体という選択肢もある中で費用対効果が高い提案だとは感じられなかった。</li> <li>・県民がこれまで触れていない情報を知りたいと思ってもらい誘導する必要があるが、興味を惹きつけて効果的に誘導する道筋に具体性がなく、提案内容によって何か変化を起こすことができるかは疑問であった。</li> </ul>